

# 歴史探訪

## クラブ

其の  
199

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### 田原の城下町の道路

道路は私たちにとって必要不可欠なものです。自転車や車で移動していると、真つすな道路以外にも折れ曲がったり、カーブを描いたり、丁字路だったり、坂道だったり、いろいろな形の道路に出会います。

道路は長い年月をかけて整備され、形が変化してきましたが、昔の形をそのまま残している場所もあります。今回は、近世の田原の城下町で使用され現在も当時と同じ形が残って

いる道路を紹介します。

現在の三河田原駅から西側の小道に入ると城宝寺が見えてきます。

城宝寺の南側に通っている道路は「寺下通り」と呼ばれ、東から順に城宝寺（浄土宗）、慶雲寺（曹洞宗）、龍泉寺（浄土真宗）、龍門寺（曹洞宗）と道路沿いに寺が4つ立ち並んでいます。この地域は城下町の最南端として江戸時代に意図的に寺を集中させた場所でした。龍門寺の東には北

側に進める坂があります。江戸時代、ここには木戸と呼ばれる門が設けられて、城下町に入る場所の1つとされてきました。この坂を上っていくとかぎの手に曲がった道路に突き当たり、通りになくなっていきます。どうしてこのような形をしているので



●新町のかぎの手に曲がった道

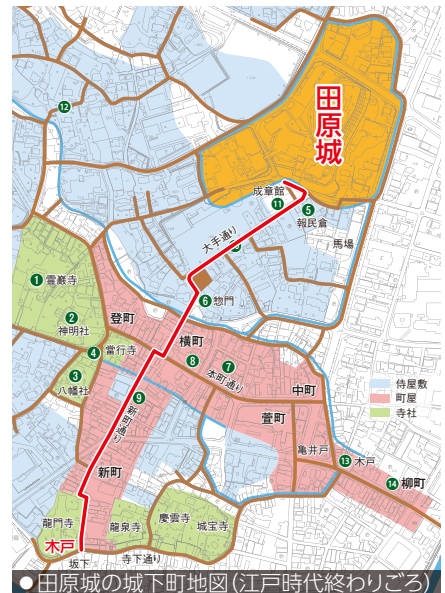
でしょうか。それは、通りやすい直線ではなく道をわざと曲げることで、城に攻め込む敵兵の足を遅くさせ、守る方が攻撃しやすいように造られているからです。

このかぎの手に曲がった道路は城下町によく見られる構造で、道路を造る際の工夫を見ることが出来ます。

そのまま、北に真つすく進んで行く」と本町通りに突き当たり、真つすく進むことができなくなります。この本町通りは江戸時代にさまざまな町屋が軒を連ねていました。そのまま東に少し行くと北側に進む道路があり、この道路を進むと田原城の惣門跡に着きます。この惣門は武家屋敷



●惣門跡(東側に一部石垣が残る)



●田原城の城下町地図(江戸時代終わりごろ)

を含む田原城の入口として重要な門でした。道路の東側には惣門の石垣が現在でも一部残っています。惣門を越えると、また折れ曲がった道路があり、田原城に通じています。この折れ曲がった道路の横には江戸時代に番所が設けられており、この番所を通過することで田原城の桜門のある場所まで行くことができました。このように城下町の入口から田原城までの道路にも昔の工夫やどのような場所であったかが分かり、とても面白いです。

普段からなにげなく通っている道路を少し気に掛けて見てみたら、今まで知らなかった新しい発見があるかもしれません。

(学芸員 清水俊輝)